

創建

そうこん

2016・3・25 VOL.50 NO.4 (通巻158号)

巻頭言：ガン・ブントラ・1
 ネットワークOB&OG®：五十嵐徹・2～3
 大学院特別講義聴講報告（宮川豊章先生）・4
 毎日新聞社学生住宅デザインHINOKIYA賞受賞
 ／日本建築学会材料施工委員会若手優秀発表賞受賞・5
 修士学位論文発表会／卒業研究発表会・6
 学術論文／教室ニュース・7
 卒業式・修了式の表彰者／卒業設計・8

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

●はじめに●

田井君、先日はあなたとゆっくり思い出話をする事ができて、とても楽しい時間を過ごせました。田井君が研究室のゼミ生になったばかりの頃は、戸惑いと不安を感じているようでした。なぜなら、田井君の心の中にあるいくつかの研究室の中から所属先を決定しなければならない時の迷いが私にはみえました。最終的には、田井君が私の研究室を選ぶこととなりました。田井君は非常に礼儀正しく、その人柄がとても良い学生と感心しました。私は、指導教員として、人生の先輩として、田井君が成長していく姿を、若い頃の自分に重ね合わせるようにしながら見ていました。そんな田井君が、まもなく卒業を迎えるのですね。本当にあっという間です。田井君が「FE、ファンダメンタルズ オブ エンジニアリング資格を受験したい…」と口にしたのは、4年生になった頃のことでした。

本エッセイは、田井君のあの時の問いに対する私なりの考えを述べたものです。田井君に向けた手紙を書くという形式で筆を進めます。

●FE/PE資格は必要か●

今までの日本の社会では、いわゆるゼネラリストが幅を広げてきました。けれども、これだけ科学技術が高度化になってくると、外国の技術を導入して要領良くやっていく手法は通用しません。分野ごとに優秀なスペシャリストが必要です。そうした中で、世界各国では単に工学の知識だけでなく、世界基準となっているFE/PE資格の高い倫理観・基礎工学・専門能力を認定できる資格があるよ。

●FE試験は難しいか●

私が会社に勤めた時の同僚が、「就職して時間が経てば経つほど、自分の専門分野以外の知識が薄れていくので、FE試験には不利だ。なる

べく若いうちにトライした方が良い。」と語っていました。

FE試験は基本的に、受験者を振るい落とすための試験ではありません。したがって、試験の範囲は広いとはいえ、エンジニアを名乗るからには、最低限このくらいのことは知っておくべきであるという工学基礎の知識を問う出題が大半です。

FE試験そのもののレベルは、大学の1、2年生で勉強してきた内容だと思います。しかし、専門外の問題もあって、非常に幅広い知識が要求されます。一方、PEの試験は、自分の専門領域に限られ、より高度なエンジニアリング知識と英語力が要求されます。しかし、受験した方の多くは、FE試験より、PE試験のほうが易しいと思われたのではないのでしょうか。

グローバル・エンジニア のステータス

教授 ガン・ブントラ

●英語が苦手な人は大丈夫か●

また、英語が苦手な人は、その分だけ準備に時間をかけた方がよいと思います。一般的に工学系の学生には英語嫌が多いといわれていますが、流暢に英会話できる能力が求められているわけではないし、英語を完璧に理解する必要もありません。大切なのは、英語の工学系用語をきっちり把握することで、それに慣れることです。少なくともFE試験では、問題のなかに出てくる工学系用語を見て、何を要求されているのか、どの公式や関数表について問われているのが判断できるレベルに達すればいいのです。英語が苦手でも悩む必要はありません。

●試験の秘策はなにか●

FE試験問題を解答するとき、最初

は難しい、理解できない問題は飛ばして、易しい問題から標的にするといいです。また、事前の対策として自分の得意、不得意の分野を把握し、不得意な分野は参考書などを参照し、理解を深めていくようにします。そして、一番大事なことは繰り返し同じ問題を解くことです。同じ問題を2回やれば、2倍分の自信が出てくるし、解答のスピードも増します。これを試験直前までできる限り繰り返すことです。この方法がFE試験に合格するためのもっとも合理的な対策であるからです。

●日大工学部ではなにか●

因みに工学部では、世界を舞台に活躍できるエンジニアを育成する目的でFE資格の取得を目指す学生を対象に、FE試験内容に特化した授業科目を設けています。

2004年より「国際工学コース」というプログラムが、全学科のH16年度カリキュラムに組み込まれました。そして、H21年度には、学科のコースとしては無くなりましたが、カリキュラムの中に学科共通のFE試験関連科目が設置しており、誰でも履修することができます。

「国際工学コース」がカリキュラムに組み込まれた翌年（2005年）から昨年度までに、工学部の在学4年生と卒業生を含むFE資格を取得した人数はすでに37名でした。田井君がFE試験に合格したら38人目になります。

FE資格を取得するメリットは、将来国際舞台で仕事をするようになる、役に立つことでしょうか。将来を見据えて、是非取っておくことをお勧めします。

●おわりに●

確か昨年11月下旬の頃でしたが、田井君は私の所に訪れて、「先生、FE試験合格しました！ご指導ありがとうございました！」。私にとって大きな喜びです。



「震災等様々な困難を乗り越えた矢吹中学校」

株式会社 ティ・アール建築アトリエ 代表取締役 五十嵐 徹

昭和48年に日大工学部建築学科を卒業し、その後集合住宅計画や住宅部品開発の研究等に従事、昭和54年に郡山に戻り妻と共にTR建築アトリエを開設しました。

昭和55年から非常勤講師として二十数年間、設計教育のお手伝いをする中で、卒研等を通した卒業生との付き合いは今も続き、私の宝の一つとなっています。

さて私の事務所は、街づくり等の調査や計画づくり(ソフト)と、コンペやプロポーザル競技による建築設計(ハード)を両輪とした業務を手がけ、当初集合住宅の計画・設計が中心でしたが、20年位前から庁舎や介護施設等を、ここ10年は学校施設を主としています。

今回建築文化賞正賞を頂いた『矢吹中学校』は、50年前に3つの中学校が統合した町唯一の中学校(小学校は4つ)で、現在65歳以下の多くの町民が卒業生となる町民の思いがこもった中学校です。43年前に建設された旧校舎は、老朽化や耐震性等が顕在化し、財政上の制約等から補強するか建替るかで町を二分する議論が起りましたが、10年ほど前に検討委員会が設けられ、建替えの動きがスタートしました。

但し建替える上で ①仮設校舎を造らずに既存校舎を使い建替える。②給食棟を残し新校舎建設後も活用。③校庭に新校舎を配置しない。④大規模な造成は行わない。⑤新校舎第1期工事は平成23年3月までに竣工。等の条件に加え短期間の設計に取り組みました。

設計者として重視したことは、1). 敷地を活かす、

2). 学校の中心づくりとわかりやすいゾーン計画、3). 充実した教育の場と居心地の良い生活の場づくり、4). 物を大切に作る心を育てる・本物の素材の活用 等です。

新校舎の配置計画ですが、北下りの三段で構成される敷地の高低差を利用し一番低いレベルに屋内運動場を、校舎は中段・上段(メインとなる2階)にまたがる形で段上に配置(図-1、2)しています。

次に図書館とコンピューター室を併設させメディアセンター(写真-1)として、全校生徒が登下校する昇降口に隣接した学校の中心に設け、「読書」や「学習・出会い・交流の場」としています。また校舎は中庭を囲む口の字配置とし、中央部に高低差を活かした大階段(写真-2)を設け、中央ステージが「学習活動の発表の場」、「交流の場」とし、さらに図書館や各教室から視線が交錯する一体感のある空間構成は、生徒の修学意欲の高揚と、コミュニケーションを促進させています。

教室は、「特別教室方式」とし、私物置場や集いの場となるロッカールームを独立させ、教室を学びの場とし、さらに廊下にアルコーブやベンチを設け、天井木ルーバーや腰板や間伐材を用いたOSBボード等、木にあふれた多様な居場所と、廊下の単調感を払拭しています(写真-3)。

矢吹中学校の古くからの歴史を継承するため、小高い丘に向かう旧校舎ゲートや既存樹木の活用保存等に取り組み、また旧街道添いの蔵のなまこ壁を腰壁(写真-4)

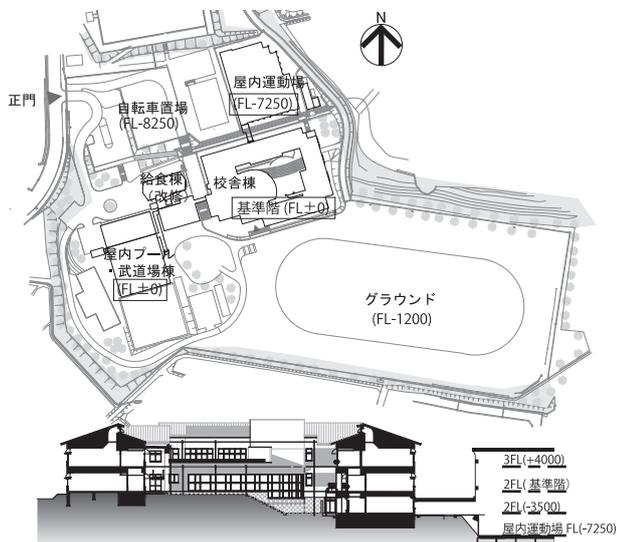


図-1 配置(ゾーン)及び断面計画

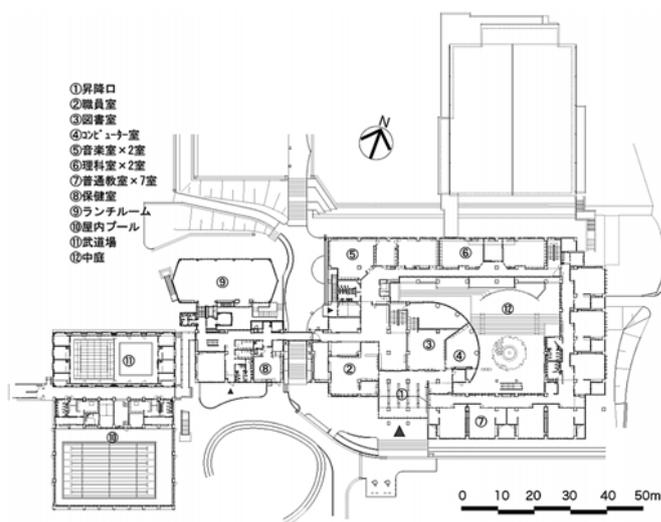


図-2 平面計画

プロフィール

- 1951年 福島県郡山市生まれ
- 1973年 日本大学工学部建築学科卒業
- 1973年 千葉大学工学部室内計画研究室
- 1974年 (一財)ベターリビングK E P開発室
- 1979年 T R建築アトリエ主宰
- 1979年 日本大学工学部建築学科非常勤講師 (～2006年)
- 1982年 法人化に伴い(株)ティ・アール建築アトリエ代表取締役

主な受賞歴

- 1997年 郡山市さわやか建築賞 優秀賞
「福島県・郡山運転免許センター」
- 1997年 郡山市さわやか建築賞 優秀賞
「富久山シルバーハウジングふれあいタウン」
- 1998年 第16回福島県建築文化賞 特別部門賞
「長沼町・水と緑のふれあいランド」
- 2003年 三春町建築賞 最優秀賞
「秋田山 龍穂院 庫裏・書院」
- 2004年 第23回福島県建築文化賞 特別部門賞
「秋田山 龍穂院 庫裏・書院」
- 2016年 第32回福島県建築文化賞 正賞
「矢吹町立矢吹中学校」

に取り入れ、在校生や卒業生の帰属意識を高めています。

最後に5年前の東日本大震災との関わりですが、震災当日町からの強い希望で完成間近の屋内体育館で午前中卒業式を挙行し、生徒は帰宅していました。隣接する旧校舎は、発災時轟音と共に一部崩壊し、柱は剪断破壊(写真-5)を起しましたが、怪我人一人出なかったことは奇跡といえます。

一方で新校舎は全く損傷がなく、震度6弱の強震により町の1/4が半壊以上の被災を受けた町民にとって真に安心安全の象徴と認められ、雨水貯留による水洗WC活用等、学校の供用開始前に避難施設として利活用されました。この後2期工事に着手し2年の歳月を要し完成

しましたが、今は震災を乗り越え、復旧・復興を象徴する建築物に関わられたことを誇りに思っています。

矢吹中学校の概要

| | |
|---------|--------------------------|
| 敷地面積 | 61,744.44 m ² |
| 建築面積 | 8,844.52 m ² |
| 延床面積 | 13,322.07 m ² |
| 用途・運営方式 | 中学校(教育施設)・特別教室型 |
| クラス数 | 普通CR18+予備CR1+特別支援2CR |
| 主要構造 | RC造地上3階+W造地上2階 |
| 設計期間 | 平成21年7月～平成22年2月 |
| 工事期間 | 平成22年2月～平成25年1月 |



写真-1 開放的な吹き抜けを持つ図書館



写真-2 高低差を利用した中庭の大階段・屋外ステージ



写真-3 木にあふれた多様な居場所



写真-4 旧街道沿いのなまこ壁をモチーフとした腰壁のデザイン

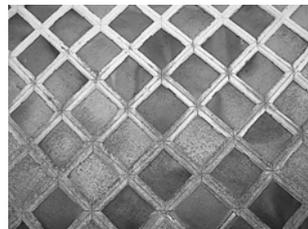


写真-5 剪断破壊した旧校舎柱

大学院特別講義聴講報告

「造りこなしで、使いこなすーコンクリート構造物のシナリオデザイナー」
(宮川豊章先生)を聴講して

大学院博士前期課程2年 尾形雅人

平成27年11月25日(水)、大学院特別講義が54号館5431教室で行われた。タイトルは「造りこなしで、使いこなすーコンクリート構造物のシナリオデザイナー」であり、講師に宮川豊章先生(京都大学特任教授)を迎えての講義であった。

講義の内容は、社会インフラにおけるRC構造物の長寿命化を目的とした維持管理や補修に関するものであった。近年では、高度経済成長期に建設されたRC構造物が一般的な寿命とされる50年を経過したことで、老朽化による災害対策や社会ストック維持の観点から、長寿命化を目的とした、補修・補強などのメンテナンスが広く行われている。講義ではRC構造物の劣化事例や補修・補強方法についてだけでなく、最新の劣化予測に関する研究の紹介もあり、私自身コンクリートに関する研究を行っていることから、大変参考になる講義であった。

講義で紹介された滋賀県の第一大戸川橋は、竣工後61年経過した現在においても供用中であり、RC構造物の耐久性の高さが伺える。そもそも、RCは鉄筋とコンクリートがお互いの短所を補い合うことにより、高い耐久性を有する複合材料である。しかし、和歌山県の橋本道路垂井高架橋は、竣工から1年半後にひび割れが確認された。ひび割れが発生した原因は、使用された骨材の性質によるものであり、その性質を確認していなかったのだ。RC構造物の長寿命化にあたり、様々なメンテナンス方法が確立されているが、修復以前に、使用する材料の確認を行い、正しい方法で施工を行うといった、「造りこなし」ことが必要となる。また、利用者が安全に使用できるRC構造物を施工することは、施工に携わる全ての人にとっての義務であると感じた。

宮川先生は「造りこなし」だけでなく、「使いこなし」ことが重要であると述べられた。RCは耐久性に優れた複合材料であるが、その本来の性能を十分に発揮させるためには、「使いこなし」ことが必要となるのだ。例えば、RCにおけるひび割れは、様々な要因により発生するものであるが、発生後は水分や二酸化炭素等の供給により鉄筋の腐食が促進され、耐久性は著しく低下する。つまり、ひび割れとはRC構造物の天敵と言える。だが、そのひび割れも、定期的な検査により、発生初期に正しい方法で補修を行うことで、耐久性の維持が可能となる。しかし、補修といっても、構造物ごとに周辺環境や使用材料が異なるため、劣化原因や進行状況等も、対象とす

る構造物固有のものである。そのため、診断により特定した劣化原因に応じた補修方法を決定する必要がある。RC構造物を長持ちさせるためには構造物一つ一つにきちんと向き合う必要があることに気づかされた。

RC構造物の性能は時間とともに変化するものである。例えば、笹子トンネル天井板落下事故の原因は、天井板を吊り下げるために使用されたアンカーボルトの固有性能が、時間の経過とともに低下したためである。RC構造物を建造する際には、時間の経過が及ぼす性能の変化を予測した上で、建設から運用、更新・修繕及び解体までの長期的な時空間的なシナリオデザインを行う必要がある。シナリオとは、物語の筋書きのことであるが、RC構造物においても、それが必要であるという考え方に驚かされた。

私はこれまで、社会のニーズに応えるべくRC構造物の長寿命化を目的とした耐久性の優れたRC部材の開発を行ってきた。しかし、実際に使用する市民は、案外、安全性に問題がなく、使用できれば良いと考えているのではないかと、宮川先生は述べられた。私は、自身の行っている研究がRC構造物の長寿命化に寄与できるものと考え、研究を行ってきたが、利用者の立場からの視点を常に意識すべきであったと考えている。また、「造りこなしで、使いこなし」という考え方は、RC構造物に関わらず、ものづくりに携わる者にとって、利用者の安心と安全を守るための義務であると言える。私の大学院での研究活動は残りわずかとなり、修了後は製造業に携わることになる。そのため、修了後は、ものづくりに携わる者として、利用者のニーズに応えること、また、責任を持って、利用者が信頼出来るモノを提供するという当たり前のことを忘れないよう、社会に貢献していきたい。



講義の様子

毎日新聞社主催 第1回住宅デザインコンテストでHINOKIYA賞を受賞

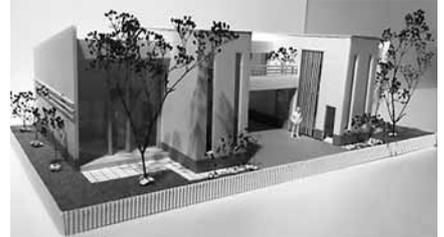
4年次生 西 潟 健 人

ヤドカ리의家

参加背景：学生住宅デザインコンテストに挑戦するにあたって、当初は「研究室内の仲間との思い出作り」を一番の目的に、研究室内の参加希望者8名を2班に分けて設計を開始しました。しかし、設計を進めていくにつれて、グループ設計には組み込めない構想が浮かんでしまったため、班の作品とは別に同時進行でもう1作品「ヤドカ리의家」を設計するに至りました。

HINOKIYA賞：今回、受賞させていただいた賞は、桧家グループで商品化を目的として選考が行われ、今春に商品化をされる唯一の作品賞となっています。実際に商品として販売されて完成した際には、家族を連れて見に行きたいと考えています。

設計趣旨：設計趣旨としては、ライフステージの変化によるニーズの変化に合わせて住居内のユニットを住み替えていくという、ヤドカリをモチーフとした構想です。これは、木造建築が本来の寿命よりも大幅に短い年月で取り壊されている現状と、核家族世帯の増加によるコミュニケーションの希薄化に着目し、双方の問題を解決できる提案をしたいという考えに基づいて設計しています。



表彰式：毎日新聞社本社ビルにて表彰式を行い、桧家住宅代表取締役社長や毎日新聞社代表取締役社長から表彰を受けました。式会場には受賞者の作品をまとめたパネルが展示してあり、それぞれの設計者による説明を交えながらの交流を楽しみました。また、実際に表彰を受け、今後の住宅業界の更なる発展へ寄与したいという考えがより一層強くなりました。

在学生の皆さんへ：コンペティションに参加したことによって、大学時代の大切な思い出ができたこと、より積極的に建築に向き合いたいという自覚が芽生えたりと、多くのメリットを感じています。自分の可能性を広げる意味でも、積極的に様々なコンペティションに挑戦してみてください。



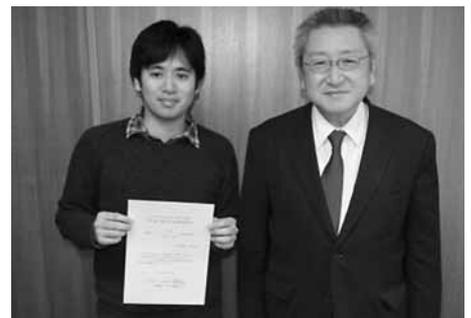
2015年度日本建築学会大会(関東)学術講演会材料施工部門若手優秀発表受賞

大学院博士前期課程 1年次生 我喜屋 宗 満

一般社団法人日本建築学会主催の2015年度日本建築学会大会(関東)学術講演会材料施工部門で、若手優秀発表を受賞したことは、嬉しく思うと同時に、今でも信じられない気持ちで一杯です。

私の所属する建築材料学研究室では、ロハスの視点から竹材を有効活用する方法について検討しており、近年、鋼材資源の価格が高騰したことから、鋼材の代替品として小型コンクリート二次製品の補強材に竹材を用いることが力学的に可能だと考え、様々な研究を行ってきました。その中で、今回「竹補強ポリマーセメントモルタルの耐凍結融解性に関する一考察」を発表しました。基材をポリマーセメントモルタルとすることで、懸念された耐水性や補強材の劣化を抑制することができるため、凍結融解に対する抵抗性が向上しました。なお、ポリマーセメントモルタルは、セメント、砂及び水に、ディスパージョン(水の中にポリマー粒子が分散)または粉末樹脂を加えて製造するものです。補強材として竹を使用するという発想が独創的で、注目を集めたのだと思います。ロハスの視点で研究に取り組んでいることが、社会的にも評価されてきていると感じました。また、発表時に今後の展望について質問されましたが、鉄筋コンクリートのひび割れ防止のために用いる、応力負担のない用心筋の代替などにも竹材を活用するといった具体的なビジョンを提示し、研究内容をわかりやすく伝えられたことや将来性も含めて評価されたと思います。今後様々な検討を重ね、更なる性能改善を試みていきたいと思っています。

最後になりますが、ご指導頂いた出村克宣先生並びに齋藤俊克先生に、この紙面を借りて改めて心から感謝申し上げます。



筆者と指導教員

平成27年度 日本大学大学院工学研究科建築学専攻 修士学位論文発表会

日時：平成28年2月17日(水) 場所：日本大学工学部 70号館6階 7066教室

1. 近世城郭の変容に関する考察 ー会津若松城の近代を中心にー 伊藤 隼 (指導：速水清孝 教授)
2. 住民主体による景観まちづくりに関する研究 薄井良佳 (指導：三浦金作 教授, 土方吉雄 准教授)
3. RC構造物の長寿命化を目的とした自己修復コンクリートの開発 尾形雅人 (指導：Sanjay PAREEK 准教授)
4. 東北地方に現存する芝居小屋の実態と地域における役割に関する研究 川島慶之 (指導：浦部智義 准教授)
5. Rayleigh-Ritz法を用いた多自由度振動方程式の動的縮小法に関する研究 児玉亜由美 (指導：Buntara S. Gan 教授)
6. 地域活性化の新たな起点となる建築計画の提案とその評価に関する研究 ー福島県内の過疎指定の自治体におけるケーススタディー 小林拓也 (指導：浦部智義 准教授)
7. 有限要素法におけるNURBSを用いた自由曲線梁の形状関数に関する研究 近内雄斗 (指導：Buntara S. Gan 教授)
8. 福島県内都市のまちなかにおける遊休不動産の利活用に関する一考察 ーDIYによるリノベーションの実践的検討ー 佐藤いちか (指導：三浦金作 教授, 市岡綾子 専任講師)
9. 木壁構法住宅の温熱特性に関する研究 ー準寒冷地に建つ住宅モデルを用いた分析ー 佐藤伸哉 (指導：浦部智義 准教授)
10. 鉄骨置屋形式RC造建屋の耐震補強方法に関する研究 清水健次 (指導：浅里和茂 教授)
11. 日本大学工学部製図棟における耐震補強効果の検討 須藤 昶 (指導：千葉正裕 教授)
12. 住民の施設利用と意識調査からみる地域交流施設の在り方に関する研究 ー福島県内の山間集落における調査分析ー 樋口卓史 (指導：浦部智義 准教授)
13. BESO法による構造形態の創生 柳谷諒太 (指導：Buntara S. Gan 教授)
14. アーケードのある街路の空間特性に関する研究 ー東西・南北アーケードの比較を通してー 山口高志 (指導：三浦金作 教授)

平成27年度 日本大学工学部建築学科 卒業研究発表会

日時：平成28年2月6日(土) 場所：日本大学工学部 70号館1階 7014教室 (五十嵐ホール)

1. 塩化物イオン固定化材を用いた断面修復モルタルの開発 喜古真未, 岡田明也 (指導：出村克宣 教授, 齋藤俊克 助教)
2. 超弾性合金を用いたRC梁の繰返し載荷・自己修復実験及び解析による変形回復の検討 菱沼 匠 (指導：Sanjay PAREEK 准教授)
3. 鉄骨トラス置屋根形式建屋の弾塑性挙動 漆原秀明 (指導：浅里和茂 教授)
4. 1質点系モデルを用いた動的測定精度の検討 高橋萌人 (指導：千葉正裕 教授, 日比野巧 助教)
5. 構造用合板による木質耐震壁の水平耐力に関する実験的研究 高橋那央 (指導：野内英治 准教授)
6. 大型模型実験による杭頭免震機構の確認に関する研究 谷津拓弥 (指導：Buntara S. Gan 教授)
7. 戸建分譲住宅の間取り構成からみた加齢対応性能に関する適合性評価 室井鴻志郎 (指導：鈴木 晃 教授)
8. ユーザーの生活要求に対応したモデルルームを使った新しい病室の提案 石井亮佑 (指導：湯本長伯 教授)
9. 過疎地域の暮らしに関する調査研究 中社悠一郎, 水沼竜也 (指導：浦部智義 准教授)
10. 福島県内における赤瓦を活用した建築物に関する調査研究 佐藤幸音 (指導：市岡綾子 専任講師)
11. 街路空間における探索歩行時の注視に関する研究 (Roma 2015) 山崎柊麻, 渡部将成, 池ヶ谷充彦 (指導：三浦金作 教授)
12. 公園内における移動イスの設置方法に関する研究 伊藤雅実, 大迫史弥, 福智大輝, 遠藤達也 (指導：土方吉雄 准教授)
13. アニメ『新機動戦記ガンダムW』に見る西洋建築の意味 佐藤将人 (指導：速水清孝 教授, 山岸吉弘 助教)
14. 風速Binによる風車騒音の測定方法に関する研究 長島久敏 (指導：濱田幸雄 教授)

発表論文

* 届け出があった記事を掲載

- ・石井孝佳, 長島久敏, 大城ラウル, 菅野誠, 濱田幸雄, 川端浩和, 菊島義弘, 小垣哲也, 「ナセル内機械音の評価(風速Binに分類したナセル内機械音)」, 第37回風力エネルギー利用シンポジウム, pp. 369-372, 2015. 11. 27
- ・長島久敏, 石井孝佳, 大門俊喜, 先崎貴洋, 濱田幸雄, 川端浩和, 菊島義弘, 小垣哲也, 「ナセルが発生するナセル内騒音の分離について」, 第37回風力エネルギー利用シンポジウム, pp. 373-376, 2015. 11. 27
- ・工藤恵子, 鈴木晃, 浦橋久美子, 大越扶貴他, 「高齢者の在宅生活支援のためのニーズ把握-事例検討会における見取り図の活用」, リハビリテーション連携科学, 第16巻第2号, pp159-168, 2015.
- ・峯岸良和, 福井潔, 森山修治, 北堀純, 吉田祐樹, 田村佑介, 新谷佑介, 城明秀, 岸上昌史, 平田裕信, 「雁行する吹抜けを持つオフィスビルの性能的火災安全設計ケーススタディ」, 日本建築学会技術報告集, 第22巻第50号, pp. 373-376, Mar. 2016

学術発表

* 届け出があった記事を掲載

■日本都市計画学会東北支部研究発表会

日時: 2016年3月6日 会場: 東北大学災害科学国際研究所

- ・公園内における移動イスの設置方法 - その5 エリア特性と移動イス設置適正個数 -

○佐々木基, 土方吉雄, 三浦金作

■阿部直人非常勤講師は, 9月7日, 福島県立ふたば未来学園中・高一貫校(仮称)基本・実施設計委託業務プロポーザルにおいて, 辺見・阿部設計共同体として最優秀賞に選定された。現在, JIA福島や本学科学生など, オール福島で福島の復興にどう関係づけられるのかという大きなテーマに取り組んでいる。

■石井亮佑君, 中村武尊君, 瀧上拓朗君, 横川結愛奈さん(湯本研・4年)は, 11月3日, MOA美術館改修設計共同研究会で, 日本古美術品を中心とする新しい時代の美術館の在り方について, 研究成果とそれを踏まえた設計提案を発表した。

■石井亮佑君, 関根千夏さん(湯本研・4年)は, いわき市病院建設課主管の『いわき市立総合磐城共立病院』建替え設計共同研究委員会において, 11月12日, 12月18日, 1月22日, モデルルーム建設を踏まえた, 病院職員および本学科学生の意見アンケート分析, および部分設計提案を発表した。

■我喜屋宗満院生(出村研・M1)は, 11月19日, 2015年度日本建築学会大会(関東)学術講演会における研究発表に対して, 材料施工委員会若手優秀発表を受賞した(p5参照のこと)。

■土方准教授と土方研究室は, 白河市横町通り景観まちづくり協議会より景観協定締結活動支援を依頼され, 11月26日, 1月26日, 2月24日に景観まちづくりワークショップが開催された。

■パリーク准教授は, 12月1日, (公社)日本コンクリート工学会より「JCI-T C155A 建設分野へのジオポリマー技術の適用に関する研究委員会の委員を委嘱された。

■12月3日, 建築学科主催による企業見学会(訪問先: ホーコス福島株式

社・株式会社蔭山工務店)が開催され, 3年次生22名が参加した。

■土方准教授は, 12月4日, 福島県より, 福島県都市計画審議会都市政策推進専門小委員会委員を委嘱され, 委員長職務代理に選出された。

■市岡専任講師は, 12月4日, 鏡石町より鏡石町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進有識者会議委員を委嘱された。

■12月5日, せんだいメディアテークで行われた, 日本建築家協会(JIA)東北支部・日本建築学会東北支部デザイン教育部会共催の「建築学生テクニカルセミナー」で, 神子小百合さん(浦部研・3年)が設計課題作品のプレゼンテーション, 浦部准教授がその講評を行った。

教室ニュース

■成松昂君, 林真裕君, 平澤大地君, 松崎暉君(土方研・3年)は, 12月12日, 13日, 19日, 20日, 郡山市主催の「磐梯熱海エリア向上検討会」に応募し選考され, 事業計画策定のためのワークショップに参画した。

■土方准教授は, 12月25日, 田村市より, 田村市都市計画審議会委員・会長に再任された。

■浦部准教授と浦部研究室が関わった, 「希望ヶ丘プロジェクト」が新建築『住宅特集』2016年1月号に掲載された。

■土方准教授は, 1月12日, 郡山市より, 郡山市建築物等物品堆積適正化審議会の委員を委嘱され, 会長に選出された。

■濱田教授が分担執筆した日本建築学会編「集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方」が1月20日に出版された。また, 本書の講習会が1月25日に建築

会館ホールで開催され, 濱田教授は, 「第I部集合住宅の遮音性能評価」の講師を務めた。

■浅里教授は, 1月19日, 郡山市役所で開催された公共施設シンポジウムのパネルディスカッションにパネラーとして参加された。

■市岡専任講師は, 1月23日, こおりやまユニバーサルデザインよくわかるセミナーにて「福祉のユニバーサルデザイン」と題して講演された。

■パリーク准教授と齋藤助教は, 2月1日, (公社)日本コンクリート工学会よりコンクリート工学年次大会2017(仙台)実行委員会の講演部会委員(パリーク准教授)並びに生コンセミナー部会委員(齋藤助教)を委嘱された。

■市岡専任講師は, 2月8日, 福島県よりふくしまユニバーサルデザイン推進会議の委員を委嘱され, 副会長に選出された。

■三浦教授, 土方准教授, 市岡専任講師は, 2月12日, 福島県より福島県景観アドバイザーを再度委嘱された。

■浦部准教授と浦部研究室は, 2月15日, 古殿町役場にて, 官学連携事業『観光・地域資源を中心とした, 次世代に繋ぐまちづくり提案』に関する研究の最終報告会を行った。

■市岡専任講師は, 2月18日, 郡山市より郡山市都市計画審議会委員を再度委嘱された。

■森山教授は, 3月11日, 郡山地方広域消防組合消防本部が主催する出火防止セミナーにおいて「火災事例からの学ぶ教訓と対策」と題して講師を務められた。

■鈴木教授, 浦部准教授と浦部研究室は, 3月30日, 発見サイエンスツアーin日大工学部において, 『みんなで作ろう! 模型でまちづくり』と題する体験型ワークショップを行った。

平成27年度 卒業式・修了式における表彰者

平成28年3月25日

◇齋藤賞◇

修士論文「住民主体による景観まちづくりに関する研究」

薄井良佳（指導：三浦金作 教授，土方吉雄 准教授）

◇北桜賞◇

修士論文「RC構造物の長寿命化を目的とした自己修復コンクリートの開発」

尾形雅人（指導：Sanjay PAREEK 准教授）

◇桜建賞◇

卒業設計「山あげの気配ー祭舞台の日常ー」

川俣貴史（指導：浦部智義 准教授）

卒業論文「鉄骨トラス置屋根形式建屋の弾塑性挙動ー耐震補強による安全性の確認ー」

漆原秀明（指導：浅里和茂 教授）

卒業論文「超弾性合金を用いた自己修復RC梁部材の実用化に向けた実験および解析的研究」

菱沼 匠（指導：Sanjay PAREEK 准教授）

卒業論文「公園内における移動イスの設置方法に関する研究ーエリア特性と移動イス設置適正個数についてー」

伊藤雅実，大迫史弥，福智大輝，遠藤達也（指導：土方吉雄 准教授）

卒業論文「福島県内における赤瓦を活用した建築物に関する調査研究」

佐藤幸音（指導：市岡綾子 専任講師）

◇優等賞◇ 漆原秀明，田井峻平

◇工学部長賞◇

学術・文化部門：大友勝多 第19回JIA東北建築学生賞（公益社団法人日本建築家協会東北支部主催）特別賞受賞
作品名「F-SQUAREの可能性ー積極的受動の空間創造ー」学術・文化部門：高梨真弘 第18回JIA東北建築学生賞（公益社団法人日本建築家協会東北支部主催）
東北専門新聞連盟賞受賞 作品名「住宅街の劇場空間」学術・文化部門：西潟健人 第1回学生住宅デザインコンテスト（毎日新聞社主催・桧家グループ共催）HINOKIYA賞受賞
作品名「ヤドカリの家」

◇日本大学工学部北心賞◇

学術・文化部門：小林拓也 JIA全国学生卒業設計コンクール2014一次審査通過（公益社団法人日本建築家協会主催）
作品名「聴衆の誕生ー音・楽の器ー」

◇父母会賞◇ 田井峻平，谷津拓弥

平成27年度卒業設計コンクール・展示会等出展作品

本年度の卒業設計展は、2015年2月6日(土)・8日(月)・9日(火)の3日間にわたり、70号館1階7012・7013教室にて開催され24作品が出展された。常勤教員と10数名の非常勤講師も参加し、9日の午前にはポスターセッション形式で、午後には公開形式でプレゼンテーションが行われた。

また、2月23日(火)～25日(木)の3日間、郡山駅前ビッグアイ6階を会場に、外部卒業設計展等への出展作品を含む全9作品による学外での卒業設計作品展を開催した。初日の午後にはJIAによる卒業作品講評会も開催され、10名ほどの建築家から直接講評を聞き、実りある機会となった。

外部卒業設計展示会・学外展示会等出展作品一覧

■日本建築家協会「全国学生卒業設計コンクール2016」

■レモン画翠「第39回学生設計優秀作品展」

我妻佑磨（指導：浦部智義 准教授）
作品名：絡まる建築ー足元を固めるー

■近代建築「卒業制作2016」

大友勝多（指導：浦部智義 准教授）
作品名：さんどう施設ー補助犬から社会犬へー

■日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」

玉手司龍（指導：渡部和生 特任教授）
作品名：アリアの群像劇
ーメディアのサテライト化と多様性ー

■日本インテリア学会「第23回卒業作品展」

村田佳孝（指導：浦部智義 准教授）
作品名：まちなかメディカルモールー買う・診る・学ぶー

■学外展示会出展作品（上記作品の他）

川俣貴史（指導：浦部智義 准教授）
作品名：山あげの気配ー祭舞台の日常ー小堤康平（指導：浦部智義 准教授）
作品名：広すぎぬ場ー広さを配分するアート山ー

橋本文太（指導：渡部和生 特任教授）

作品名：円谷英二の森
ー円谷英二が生きていたならばー

瀨上拓朗（指導：湯本長伯 教授）

作品名：平和70年ー歴史ミュージアムの設計ー

増子 光（指導：渡部和生 特任教授）

作品名：リーヴァの民衆ー水辺空間と子どもたちの夢ー

